

1. 地域農業の状況



- 日向市は、県北東部に位置し、温暖多照の気候条件や沿岸地域から中山間地域に至る恵まれた立地条件などを生かして畜産や施設園芸、水稻などを中心に、付加価値の高い農業を展開している。
- しかし、人口減少・少子高齢化により、団塊世代が75歳を超える中、平成22年から令和2年までの10年間で総農家数は約26%減少している。
- 特に果樹においては、日向市発祥の香酸かんきつである「へべす」をブランドとして確立しているものの、生産者の高齢化による未管理園地の増加、小規模園地の散在が問題となっていた。
- そのような中、地元日向市に地域貢献したいという思いを持った企業である(株)内山建設が、日向特産「へべす」の産地が衰退している現状を知り、「へべす」生産に参入すること決意。令和元年12月に農業法人「ひむか農園」を設立した。
- 西川内地区に遊休農地を含むまとまった農地があり、近くにベテラン農家の園地もあったことから参入地域に決定。
- 地区の営農組合役員（農業委員等兼務）が地権者等を個別訪問するなど調整を行った結果、受入が決定した。



西川内地区での地権者説明会（R1.9.26）



ひむか農園HPより

活用した支援策

R1	「地域と創る」新たな農業参入雇用創出事業（県）
R4～R6	農地耕作条件改善事業（国）
R3	果樹経営支援対策事業（国）
R4,R5	機構集積協力金（国）

2. 地区概要

取組主体	株式会社ひむか農園	地区名	にしかわうち 西川内地区、深谷地区
再生面積	約8ha	取組年次	令和元年12月～
作付作物	へべす	販路	飲食店、自社加工、JA出荷等

3. 取組内容及び効果

遊休農地を解消し、地元特産のへべすを栽培

- 令和元年度に県単事業を活用し、遊休農地の簡易基盤整備をした上で、農地バンクを活用した農地の集積を実施（約2ha）。
- 令和3年3月に果樹経営支援対策事業を活用し、1,500本の苗を定植。
- 令和4年には農地利用最適化推進委員や農業者代表の協力により、深谷地区で地権者説明会を行い、約8haの農地を集積。ほとんどが遊休農地であったため、農地耕作条件改善事業を活用し3年かけて園地を整備した。
- 地域貢献活動として、記念植樹祭や収穫祭等のイベントを開催し、地域の方々との信頼関係を構築している。
- 現在、海外輸出や加工品の商品開発など付加価値の創出を検討中。
- 雇用状況については、令和元年に1人、2年に1人（県農業大学校卒）、5年に1人（へべす農家後継者）を雇用。



整備前



整備後



植樹祭の様子